



Title	アメリカ国語教育の傾向（承前）
Author(s)	八木, 毅
Citation	語文. 1951, 2, p. 38-47
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/68373">https://hdl.handle.net/11094/68373</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## アメリカ国語教育の傾向 (承前)

八 木

毅

前号において私は(一)「アメリカ国語教育の環境」及び(二)「中等教育の原理と目標」について述べ、そして(三)「アメリカ国語教育の実際」を語らんとして、編輯上の都合から、初等教育まで切たのであつたが、以下それに續けて、中等教育<sup>セカンダリー・エデュケーション</sup>すなわち中学校・高等学校における国語教育が、どのように行われているか、の問題に入つてゆこうと思う。

アメリカの中等教育において母国語が尊重され出したのは、十九世紀の三〇年代に入つてからのことであつた。それまで母国語を排斥して、ラテンとギリクの研究に閉じ込めていたアカデミイにおいても、この頃から、英語学、英文学の学習が行われるようになってきた。以後、この国の中等教育における英語学習の量と時間とは絶えず増加してきたのである。そして現在では、母国語としての英語は、中等教育の各段階の全生徒に、まんべんなく課される学科となつてしまつた。中等学校全時数の少くも六分の一以上が母国語とその文学との学習に充てられるようになった。(註1)

このことは、母国語教育の目的・價值・方法・道具立てが、他の如何なる学科よりも、慎重詳細に分析された結果に他ならなかつた

のであつて、母国語こそは、あらゆる市民のあらゆる生活の、もつとも基礎をなすものである、という結論にもとづくことは、いうまでもなかつた。中等教育におけるこの学科の根本的な目標は

- (1) 生徒に口答および文筆による藝術的表現を自由ならしめる能力をあたえること。

- (2) 生徒に完全な読書と、鑑賞の方法を教え、よき読書のための趣味を、彼らの内部に形づくり、そして彼らに、如何にして價值ある書物を見出すかということを教えること

であると連邦教育会(National Education Association)英語科委員会報告(註2)はのべている。かゝる目標の下においても、言語は、その藝術的表現より先に、独立的な精神の過程として、人間の思想を條件づける手段であり、また、人と人との思想傳達の手段であるという、その効用性が、はるかに重要、かつ上位に考えられねばならないとされている。すなわち、言語科では「話し言葉」にしても「書き言葉」にしても、それは自己の思想の表現と、他人の思想を理解する能力との發達を目標とし、傳達の手段としての言語の機能(註3)を強調するのである。しかし、言語がただ單に、思想を傳達する道具であるに止まらず、それ自身思索過程の條件・要

材であるという基礎的な事実の認識が持たれるにいたつて、英語教育の内容が廣くなつてきた。

さて、次に、国語としての英語科のカリキュラムが、如何なる傾向を示しているかを、うかがつてみよう。

カリキュラムの一般的傾向として、

(1) 従来の各学科分立のカリキュラム。及びその改良型としての統合カリキュラム。

(2) 各学科のワクをはずして、経験や生活を中心として、新たな体系をもつたコア・カリキュラム。

(3) 右の(2)と(1)との折衷のカリキュラム。つまり完全に教科目のワクを外してしまうことをせず、経験や生活のコア学科をもちながら従来の既存学科をもつて「周辺学習」せしめるカリキュラム。

コア・カリキュラムは確かに進歩的な方法ではある。しかし、前号にもちよつとふれておいたようにアメリカにおいてさえ、バージニア、アンカーサス、ジョージジャー、アラバマ、ミシシッピ、テキサス、カリフォルニア、オレゴンなどの数州とくにフロンティアの名でよばれている新しい州で幾らか試みられてきたものの、文化傳統の輝いこの国でも、コア・カリキュラムを実施することには、かなりの困難があつたようである。

そこでとられた方法が單元学習である。その方法では従来の、読み方、話し方、聞き方、書き方、綴字、文法と国語の内容が夫々に分化し、夫々に体系をもつというのではなく、それらを統合し、各部門をもつと密接に関係づけて学習させる、という点に單元学習の特長がある。また個人差に應じた個別指導の重要なことは、すでに

常識であり、指導の基本的原則とさえなつているのである。(註4)

このような学習指導においては、従来からの教科書中心から生徒の学習活動が中心の教育に、動いてきているのは当然であるが、それでも、国語学習に不可欠の拠りどころを提供している教科書は、われわれが、そうした教育の内容をうかがうのに、少くとも一つの手がかりを與えてくれるものと考えてよいであらう。(日本のアメリカ式新教育を移植しようとする動向には「教科書」に対する觀念を改めさせようとする意図が多分にある。それは大切なことではあるが、一般に、教科書輕視の傾向にある如くそれを誤解して受けとられているのではあるまいか。)

中等学校で行われる国語教育の一般的傾向については、もういちど、前号に述べた中等教育の目標を想起していただければよいのであるが、それを如何に具体化するかという技術的な問題、つまり方法論の相違によつて、前述のように、異つた形式が色々生れてくるし教科書もそれに應じて編纂されてくるわけである。

いわゆる「読本」の例として、リッチマン (Frances Bragan Richman) の編纂にかかる「読書は愉しむ」(註5)を披いてみると、菊版五七三頁に約五〇篇の物語、約一〇篇の現代詩、それに約一〇題のセルフ・テストが加えられて成つていゝ。

物語には「郵便機乗り空中へ」(Mailman overboard: by Charles A. Lindbergh) のように著名の飛行家リンドバーグがまだ無名の一マイル・キャリヤーであつた頃の自傳的な冒險物語や、或る農場にいたボニー・ケイトという娘は、そのフロンティア地方でも、とりわけ可愛い少女であつたが、逃れ、苦しみ、貧乏しながら、な

おもその貞節を守り通したという、開拓者の時代の苦難にみちた、しかしロマンティックな物語 (Bonny Kate of Tennessee: by Eleanor Sickels) があったり、「宿怨」(Feud) と題するやはりその頃の激しい鬭争の一面を描いた物語「砂塵は山脈を越えて」(Dust across the range: by Max Brand) のこれも開拓者時代の、保守的な老人が学者のすゝめる牧場経営の新しい方法を拒んだが、進取の青年が思慮深く起ち上つゆく、その青年の背後に、一人の少女が彼を慰め、励ましている。といった風に、物語の多くは冒險談や、フロンティア・スピリットに満ちた水々しい開拓者たちの奮闘、青年たちの情愛の生活などを扱つた青年期の生徒の興味に、マッチせしめる工夫がみられ、詩においても、「To a blue-eyed Cowgirl」や「The Cowboy's life」のような作品はその傾向の大体を示しているようであるが、いまだは、わが国のあらゆる教科書に、絶えてみられぬような一篇の詩もそれらの中には入れられてある。それは The Bravest Soldiers (by Walt Whitman) がそれで、詞句を引用すると、

Brave, brave were the soldiers (high named today) who  
lived through the fight;

But the bravest pressed to the front and fell, unnamed,  
unknown.

しかし、この詩を読む生徒たちが、長い民主主義の歴史をもつ社会に育ちつゝあることをわれわれは、根本に考えなければならぬ。セルフ・テストにおいては、社会的・道徳的・倫理的な反省および訓練をさせるべく意図されているのであつて、これらは、物語と人生とをより密接に関連させ、教材の物語を、單なる娯樂的な読み

物として享受するだけではなく、思考訓練の素材にまでしてゆくこととしてゐるのである。かゝる傾向の具体的なあらわれの一つとして、いまセルフ・テストの数例をひろつて見よう。

(1) 「あなたはおじけますか？」

あなたは氣おくれますか？ あなたはおじけますか？ 次の問いに答えることによつて、あなたは自分のおじけの程度を決めることができます。

a、あなたは歌を唄つてゐるグループの中に這入つて、楽しんだりしますか？

b、もしもあなたに、リーダの資格をあたえようとされたら、あなたはそれを受けるでしょうか？

c、あなたは多くの聴衆を前にして、ステージから何かしゃべつたりできますか？

d、もしもあなたの洋服が流行おくれだつたら、あなたはパーティーにも行かずに家にくすぶつてゐるでしょうか？

(2) 「あなたは正直ですか？」

もしもあなたが次の問いに心の底からの氣持ちで答えた場合、あなたは自分が正直であるかどうかを知ることができるでしょう。

a、釣りをしにゆくのに店を空けたりして、もしも失職したら、新しい職を頼む時、あなたは心に、ここで働きたいと思つた店の主人に本当のことを言えますか、それとも、前のつとめは自分の都合でやめたのだ、という風に店主に思わせようとしませんか？

b、もしも、盲さんが合財袋を落してゆくのを見たら、あなたはそれを拾い上げて彼に手渡して上げますか？

c、もしも、二〇ドルのおさつがデパートの床に落ちていて、し

かも、あなたがそれを拾い上げるのを誰もみていなかったも、店の巡視人にそれを渡してやりますか？

d、もしも、バスであなたに隣りあつた乗客が切符を落して、あなたに、それがどこに落ちたかを知つてゐるのに、その男が知らない時、あなたは彼に注意してやるでしょうか？

e、もしも、事務員が、一ドル紙幣を受取つてゐるのに、五ドル紙幣のつもりであなたにお釣りを出したら、そして、それ全部が彼に渡すべきものであるのに、あなたがそのお釣りを改めなかつたために三町も来てしまつていたら、あなたはお金を返えしに引返えすでしょうか？

(3)「どうしますか？」

少年が、二人の少女と歩いているのです。その男の子の本当の位置は次のどれでしょう？

a 少女たちの後から、

b 辺石の側を、

c 二人の少女の間に、

(4)「あなたは怠け者ですか？」次の問いに正直に答えることによつて、あなたはそれを容易に知ることが出来ます。

a あなたはお家での用事からぬけ出るのに、あれこれ周到な計画をめぐらしますか？

b 自分の仕事を最後のどたん場まで延ばしますか？

c 朝早く起きるのをひどく嫌いますか？

d 何かするように頼まれなくとも、あなたはお母さんのお手傳いをしますか？

e あなたはチームや、委員会や、クラブやその他のグループが

余りにもごてくさ面倒だという理由で尻込みしませんか？

f 正規の言いつけ以上に臨時の仕事をしている生徒を、あなたは手腕を見せて人を感じさせようとしているのだと思いませんか？

(5)「パーティにゆくのにどうしますか？」男女の生徒が学校のダンスにゆくのですが、さて彼らはどこで落ち合つたらよろしいか？

a 街角で、

b 学校の近くで、

c 少女の家で、

このセルフ・テストは編者自身の作題であるらしいが、その他の物語および詩など、原作者のあるものすべては、例外なく、その著作権が十分に尊重され、原作者（著作権者）の承認を得ていることを明確にしていることや、巻尾にはやはり主要項目——作者名や作品名など——がインデックスされていることなどは、われわれの注意をひくところである。

次に、トレッスラー (J.C. Tressler) 編になる教科書「English in action」を中心に、ハイ・スクールにおける表現構成 (composition) の教育についてのべることにする。このコンポジション・テキストは生徒の記述表現と口述表現における生活に働きかけ、楽しい目標をあたえて向上させ、指導してゆけるように計画されている。このことは、多くの男女生徒たちがパーティや、フットボールや、水泳や、バスケットでまつたく活潑に生き生きとしているのに彼らの経験や、主張を話したり、書いたりする時に、睡けを催したり、退屈したり、し勝ちであつたからである。生氣のある効果的な英語はそのように退屈な、うんざりしたり、睡眠剤のようなものではないのだ、という意見を編者はもつている。「動作に伴つた英語」

(English in action) という名に恥じないためには、その内容が、まず、実例と實際面を最大にし、理論と法則を最小にとどめるといふことも主張しているし、更に説明は簡單で、枠にはめないで、問題個々の指導に基礎をおいてゆこう、ともいつている。例えば、文法的な説明をする場合には、三四個の文について問題を用意して、生徒に問い、その問いに答えて生徒の理解を助け、然る後、簡單な法則、定義、概念に誘導し、更に、生徒たちがどのように研究作業をしてゆくかを示すために、同じような型を補足し、そして最後に体験を多く豊かにさせてゆくのである。

このテキスト (English in action) がよつてもつて立つ所の十一項目に渉る土台を挙げてゐるのを引いてみよう。

- (1) 具体的な例証や、實際問題の伴わない説明は無價值である。
- (2) (話しコトバ、書きコトバ共に) よきコトバの習慣は、正確な形の整つた知識よりも、もつと望ましいものである。
- (3) 覚醒期の生徒たちが、悪いコトバの習慣を捨てて、話しコトバにも、書きコトバにも、よいコトバの習慣をつくり上げるといふ事を熱心、旺盛、体系的にやつてゆくということが、大抵の学校での、英語の課題の半ばを占めていて、テキストは、そのために、なすべき仕事の種々な動機 (varied motives) を暗示し、その仕事の実際的な價值 (practical value) を示さねばならない。そして、話しコトバ書きコトバの基礎として、少年、少女たちのいろいろな興味にも接触を忘れてはならない。
- (4) 最も多くぶつかる所の、話すこと、書くこと——例えば、会話と手紙——についてのいろいろな型を夫々教えるということに多大の注意が拂われねばならない。

(5) 模範としての生徒の課題作文は、一流の文学作品以上に彼らを刺戟する。教師は「コロシウム (Colosseum) (註6)」の絵画を高く揚げないで、好きな木陰に往け、と言ふべきである。

(6) 詩作することは表現構成に役立つセンスを刺戟するので、價值ある方法である。

(7) 生徒たちは簡單な基礎文法 (fundamental grammar) の概要を習得するまでは、全く暗中に模索する盲人同様である。

(8) 文法指導の目標は I 正しいセンテンス (sentences) を書くこと、話すこと、II 種々な、そして効果のあるセンテンスを作ること、III 句読点 (punctuate) を正しくつけること、IV 印刷されたページから思想を採萃する (extract) こと、などを

助けるという所におくべきである。文法は、それゆゑ、口述表現、記述表現、読書の学習と両立しうる最低の基礎学習に止めねばならない。

(9) 教材の選択、およびそれをどの程度に強調するかを決定するための標準は、使用の度数、永續性、頻度、および誤用の社会的重大性に夫々基礎をおくべきである。

(10) 流暢さと正確さとは共に、計画 (project) と訓練 (drill) の細心な結合によつて得られる。計画は訓練を動機づけるものである。

(11) 文法や、スペリングや、句読法や、頭文字ではじめること (Capitalization) や、効果的なセンテンスに関して、知っているべきことがらを、生徒が学習するのを助ける最良の道は、熟達への要点をテストして教へて教へては教へて、それを繰り返すことである。半可通はあまり値うちがないといえるから。

ここには編者の国語基礎学習に対する考え方がよく出ている。そして最後にテストイングを重んずるのは、それが教授のエッセンシャル・パートであるからといい、それによつて教師も生徒も迅速・正確に彼らの成果を——熟達の間を知る事ができるから、ともいつている。

このテキストは、四年制ハイ・スクールの最初の二年、またはジュニア・ハイ・スクールの最修学年、三年制シニア・ハイ・スクールの最初の学年に使用されるように編纂され、特に優秀クラスにおいてはジュニア・ハイ・スクールの上級二ヶ年に使用されてもよいとしている。

その内容は、会話、表現構成、物語る事、簡単な文法、正しい文章にすること、句の構成、友人への手紙、説明、口述と朗読、文章のセンス、よりよい文章、実用書翰、記述、思索・討議・討論、詩作、スペリング、明晰な発音、などで、ブック2はシニア・ハイ・スクールの上級二年間に使われるのであつて、内容は更に實際的、実社会的になつてくる。例えば、スピーキングの章に、声や目的や梗概、始めと終り、ラジオの場合、話者としての要件など、レターの章では、ビジネス・レターと、フレンドリー・レターに分けて、表書き、用箋の使い方、その他詳細であり、電報原稿の注意もあり出版物の章では、新聞、とくに学校新聞、クラス新聞のことがよくわしく扱われている。以上第一部は口述および、書記表現のエクササイズであつたが、第二部は文とコトバ、つまり文法的な、コトバの科学であり、一般的な文法の解説、発音の基礎訓練などが廣汎に含まれている。

右と同じ編者が四年制ハイ・スクールの第三学年、三年制シニア

・ハイ・スクールの第二学年のために最近(1945)編纂した同名(English in action)の Course Three は内容やト一新し、より興味深いものへの志向が見られる。

このテキストにうかがわれる編者の目標、観点をくみとつてみると、まず、このテキストのシリーズが基礎をおいているのは、人間同志の連絡(communication)とか、自己表現を刺戟する学校内外での生徒夫々の位置・体験が言語の習慣習熟のための機会をあたえるのだという原理である。第四版では、平時戦時を問わず言語活動に関する眞に大切な目標として、次のような主張をしている。

- (1) 理解力をつけるために、指導書や、新聞・雑誌・書籍などを読むこと。
- (2) 礼儀正しく、そして十分理解しながら聞き入り、そして正確に指導にしたがうこと。
- (3) 要約(Brief)や、正確なノットをとること。
- (4) 論理的、客観的、独立的(自分で)に考えること、そして焦点を外さず、人を心服させるように(convincingly)討論すること。
- (5) 明快に、誤解を避けるに十分なよう、はっきりと話すこと。
- (6) 簡潔に、マニュスクリプト体(manuscript)(註7)で読みやすく書くこと。
- (7) はつきり説明し、従いやすいように指図を與えること。
- (8) そのすること、見ること、聞くこと、読むことを正確で、愉しように報告すること。
- (9) 健全な、魅力ある、欠点のない個性に発達すること。
- (10) デモクラシイのための、勤労と、奉仕と、指導と、知的、実践

的市民性を学校での実習で用意すること。

(11) 豊かな語彙と、的確で力あるコトバをつくり上げること。

(12) 機能文法 (functional grammar) と句読法 (punctuation) の要点を習熟するための用意として、英文の文法的構造を理解すること。

そして、ここでも、English in action の名にふさわしいためには、理論と法則は最小にして、実例と熟練とを最大に用意し、学校と、それ以外の全生活での普通な言語活動を効果的に運ぶことを助けようとするのである。

上級学年で使用されるこのテキストでは、最初に、「娯楽と、実用のために雑誌を読むこと」と「図書館の利用」の二つの單元が、次の「話し、書く」能力をつくる單元の準備的段階として批判的に教材を見出し、そして使用する生徒の實力をまずみがいてゆく用意をしている。第二部は、近代生活の完成上必要な部分をなす諸活動に対して、生徒の熟度を高めてゆくとする内容を持つている。――例えば、説明すること、レポートや、交際・事務の書翰を書くこと、個人的な願書の類を作ること、映画のよい作品を娛しむこと、など。

創造的な表現を一つやつてみようという氣持に生徒の心を誘うために「市・学校及クラスの新聞」、「ラジオ聴取、原稿作成、放送」及び、「物語」の單元がはじめにあり、知的評價と、創作的部面とに、このテキストの内容を組合わせてある。それらの後に一五〇頁に余るハンドブックと、追加附録、インデックスなどがつつき、ハンドブックには、文法と、慣用語法などが入っている。その中の「効

果的な文をつくる單元中、「洗煉された表現」(不体裁な表現を避ける)の章で示されている例二・三を紹介してみよう。

I will close my letter by wishing you a Merry Christmas and a Happy New Year!

では最初の九語が削除され、

In my opinion I think The Haunted Bookshop belongs on our reading list.

では最初の三語、

I wish to say that Jim and Phil were sorry to hear of your illness.

では最初の五語、

Max Allen is a man who is a very skillful mechanic. in his field

では、アンダーラインの部分を取り除いたのがよきコトバ (good English) であると説明している。その後には次のような漫画がある。ベッドに眼鏡をかけた青年がねさされていて、そのベッドには下のような病名と隔離の理由が掲げられ、病人はなお「あのオ、そのオ、あのオ、そのオ、それから」としきりに言っているのである。之が最も悪いコトバの習慣 (The and-so habit is one of the worst language diseases.) であるとあてつけられている。

プリ・プライマーからハイ・スクール

QUARANTINED  
BECAUSE OF  
AND-SO  
DISEASE



まで、以上でアメリカ国語教育の概観を不十分ながら終るのであるが、そこに見られたのは、教育の目標が、能率と洗練を尊ぶアメリカの市民を育てることであり、そのためには国語教育は最も基礎をなす学科であつて、そこでは應用的能力の熟成を期待するために、却つて基礎能力、例えば、スペリングや、生きた文法による言語的訓練がくりかえされ、よいコトバに対するセンスをやしなうことが根氣強さと、計画性をもつて、指導されてゆくのである。

ようやくカレッジになると單元は分化し、専門化される傾向は若干あつても、それらを常に人間に統一してゆこうとするアメリカ・ヒューマンイズムの反省が見られる。

コーン (Coan, Otis W.) は、「教科課程での必要コースを狭小化しようとする企図は、その地方の安寧・幸福にきつと危険である。」といい、「幻想・廣い視野、そして世界の要求を感受するセンス及びリーダーの資質は、工学英語や、商業英語、或は同類のコースにおいて強調されてきた特別な熟練なんか以上に、発達さすべきだ。」(註8)といっている。

カレッジでは、個人的な創作や、読書による文学研究や、グループ方式による話し方や、現代文学 (contemporary) の單元が、社会的理解のために、一般教養のターミナル・コースにおいて與えられねばならぬことをクック (Cook, Alice Rice) はのべている。(註9)

現代文学が学生に強くアッピールするといふので、文学入門の講義を終つた学生たちにそれを選択させることをクーバー (Cooper, Alice C.) はつづつて。(註10)しかし、カレッジにおいても、レヴィンソン (Levinson, Margaret H.) が提案するところでは、まず

始めに、学生の興味に立脚して、ラジオ・映画・雑誌への反應態度——消極的な受け取り方に対して、積極的な批判的態度——を学ばし、第二学年では、新聞のより知的な読み方の指導がなされ、その際、リーダーズ・ダイジェストは多くの作業の基礎資料として用いることができ、さらに事務的通信文の初歩と、普通手紙の基礎原理学校新聞の記事書きの根本方法なども若干しらしいといふのであるが、これらは全部中等教育で一通り、十分に学習してきている筈ではあるが、必修の英語科にこうした実用的なものを課することを望む一般の傾向を代表しているともみてよからう。カレッジにおいて、こうしたことがいわれるのは、この国の六一〇のジュニア・カレッジ中、五年制と一年制が各一、三年制が六、四年制が四一、二年制が五六一の卒業生二二六、〇〇〇人中、(註11) さらに上級に進学するものはそれ程多数を占めず、自然それらのカレッジがターミナル・エデュケーションをしなければならなくなる。その事実をストーン (Stone, Helen M.) が、南カリフォルニアの英語教師会委員会の觀察録を引用して、カリフォルニアのジュニア・カレッジの数ははいまなお、彼らの仕事は、若い人々のシニア・カレッジへの進学準備にあると考えているということを示しているが、それ以上の修学なしに、ジュニア・カレッジだけで、すぐ社会生活に入る学生たちのために計画されたコースをもっているジュニア・カレッジの中にはフレイトン・ジュニア・カレッジ、グレンダール・ジュニア・カレッジ、ロスアンジュルス・カレッジ、ヴェンチュラ・ジュニア・カレッジ、チャプファイ・ジュニア・カレッジ、ロスアンジュルス・ジュニア・カレッジなどがあり、夫々、現代文学や近代文学や、商業ジャーナリズムのコースを用意し、チャプファイでは航空学生のため

めに、イングリッシュ・コースを開設していることを報告している。  
(註12)

最近十年來のアメリカ高等教育とくに、右に述べたジュニア・カレッジの内容が、完成教育として充実してきたようであり、そこに行われる一般学科 (General) としての国語は、次第に生活と、興味と実用を中心としてきている傾向にあるらしい。ウェデマイヤー (Wedemeyer, Archibald M.) が四年制大学の卒業生の半数は、さらに程度の高い研究機関に入つて彼らの勉学を継続しようとしている。その事はジュニア・カレッジが、すべての学生に対して適切な教育経験を與えるべき責任を負わされている何よりの証拠である。(註13) といつておるのはその辺の事情を物語っているものといえよう。

ただここで、以上を要約してみるならば、アメリカにおける国語カリキュラムの傾向は、社会を背景とした言語生活を、より豊かなものとするに必要と思われる諸能力を、生き生きと伸ばしてゆこうとしているということ。そのためには、新聞でも、ラジオでも、映画でも、現代文学でも、すべて生活と共にあるものは大切な資料・教材として取り入れているということ。そして、国語教育の領域をこれら生活の諸分野にまでおしひろげ、聞く、話す、読む、書くという、コトバの効果的な使用能力、理解能力を豊かにしようとしているところにある。そこには偉大な富力の背景があり、未熟な生徒たちを無理矢理背のびさせねばならぬような、所謂應用能力にばかり重点をおいて学習をさせてゆこうとする氣短かさはなく、正確明晰な基礎能力の修得のためにより深い注意が拂われていると考えられるのである。

学制にしても、カリキュラムの編成にしても、恐らくこの国ほどバラエティに豊んだ国はないといわれる。だから、教育思潮や實際の、どれか一つの傾向のみを取りあげて、これがこの国の趨勢であるというのはあたらない。本稿においてはその意味における不徹底不明確もあろうし、更にわたくしは、アメリカの古典教育についても当然ふれるべきであつたが、中等教育までには、殆んど、それが扱われてゐないらしく、また、それが取り上げられるのはカレッジでも文学系統の職業課程 (Semiprofessional) においてであるように、この点に關しては、資料が整つてから改めて補いたいと思う。

わが国での国語教育は外見上は大きく動いたにもかかわらず、国語カリキュラムの編成・運営が依然中央集権的であるということ、基礎学習を怠つていふこと、また、民主主義的人間形成への迫力を欠いているということ、更には国語評價の、あの四つの学習目標を宙に浮かしたまゝでおしつけているために評價が以前よりも曖昧になつていふことなどにおいて、まだまだ批判と反省が加えられねばならないと考えられる。

註1 "The public high school and the college": Principles of secondary education pp.305; Alexander Inglis 1918

註2 "Report of the committee on the high school Course in English" pp. 75

註3 "How we think" Dewey J. pp. 179-80

註4 "American reading instruction" Smith, Nila Barton

1934

註5 "Reading is Fun!" Frances B. Richman 1940

註6 ローマ帝政時代に造られた巨大な円形劇場

註7 流麗な草書体でなべ、一字書きの書体

註8 "English in a junior college" Coan, Otis W. : Junior College Journal, 3 : 94-96 Nov. 1932

註9 "English in the junior college" Cook, Alice Rice Junior College Journal, 3 : 313-8 March 1933

註10 "English for the Amiable" Levinson, Margaret H. : Junior College Journal 10:445-9 April 1940

註11 "Present Status of Junior College" Walter C. Eells 1941

註12 "English Courses for the Terminal Student" Junior College Journal 10 : 85-88 Oct-1939

註13 "Citizenship Training through Art Activities" Wedemeyer, Archibald M. : California Journal of Secondary Education 15 : 29-31 January 1940

## 前号論文補正

宇佐美 喜三八

前号の拙稿「眞淵の古今集研究に関する一問題」の中で、三宅氏の説を挙げたが、三宅氏は「荷田春満」の中で、「古今集左注論」を在満の作と見ることは否定に傾いてをられるのであって、それを在満の著述目録の中には入れてをられない。同氏はまた「賀茂眞淵の皇国学」(「国語文化」昭和十七年三月号、後、同氏著「国学の学体系」(所収)において、「左注論」は主として眞淵が書いたものであらうとしてをられる。なほ、「樟蔭文学」第二号に書いた拙稿の中でも、「野村氏の論拠によつては未だこれを眞淵の著作とも決して難いとする説」として、三宅氏の「荷田春満」を註記したが、前後の文の関係から、三宅氏が眞淵説を否定してをられるやうな意味にとれる。これは私の書き方が粗漏であったためで、三宅氏の御意見は右の通りである。ここに補正して三宅氏には謹んで御詫びする次第である。